

8-4-23 道路橋技術相談窓口対応WG

1. 設置目的と組織

(1) 道路橋技術相談窓口対応 WG の設置目的

本 WG は、令和元年 5 月までは、公益活動 SWG の中で活動してきた組織を独立させたものである。

会員から寄せられた道路橋示方書に関する技術相談に対応し会員の技術力向上に資すること、ベンダーが行うソフト開発と連携し、会員がより使い易いソフトウェア開発の一助とすることを目的としている。主たる活動は以下のとおりである。

- ① 道路橋示方書等技術基準に対する会員からの質疑応答
- ② 技術基準に関する意見照会
- ③ 国総研・土研との分野別実務者レベルの意見交換会への参画
- ④ ソフトウェアベンダーとの連携

(2) 組織

技術部会交通基盤委員会の下に位置付けられており、分野別に以下の委員から構成されている。なお、事務局としてインフラ研の参加を頂いており、会員と本 WG との連絡を担っている。

総括（3 名）・鋼橋（5 名）・PC 橋（7 名）・下部構造（4 名）・基礎構造（5 名）・耐震構造（6 名）・擁壁・函渠（5 名）・事務局（インフラ研 1 名） 合計 36 名

2. 活動記録

(1) 道路橋示方書等技術基準に対する会員からの質疑応答

道路橋示方書等技術基準に関する会員からの質疑は、以下の手順で受け付け、回答を行っている。

会員⇒支部窓口⇒事務局⇒本部回答委員⇒国総研・土研確認⇒本部回答委員⇒事務局⇒会員

本活動の特徴は、会員からの質問をそのままの形で国総研・土研へ転送するのではなく、本部回答委員による回答(案)を添えていることである。

なお、自明である質問内容、過去と同一の質問内容、道路協会 HP に既に回答がある内容については、国総研・土研に確認を取ることなく、本部回

答員から事務局を経て、会員に回答している。

また、これまでに寄せられた質問と回答は、会員向けに建コン HP に公開されている。

本活動は国総研の建設コンサルタント成果の品質向上・レベル向上のため必要な活動であるとの認識の下、国総研・土研の全面的な協力を頂き、平成 25 年 9 月から運営されているものである。

質問・回答状況は、以下のとおりである。

- a) 平成 25 年 9 月～平成 26 年 3 月 21 件
(内訳 基礎 4 件, 下部工 6 件, 耐震構造 10 件, その他 1 件)
 - b) 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 10 件
(内訳 基礎 3 件, 下部工 3 件, 耐震構造 3 件, 函渠擁壁 1 件)
 - c) 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月 15 件
(内訳 基礎 1 件, 下部工 3 件, 耐震構造 9 件, コンクリート構造 1 件, 鋼構造 1 件)
 - d) 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月 11 件
(内訳 基礎 1 件, 下部工 3 件, 耐震構造 5 件, 鋼構造 1 件, 函渠擁壁 1 件)
 - e) 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 7 件
(内訳 コンクリート橋 1 件, 下部工 2 件, 耐震構造 3 件, 函渠擁壁 1 件)
 - f) 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月 39 件
(内訳 コンクリート編 10 件, 下部工 9 件, 耐震構造 15 件, 鋼橋 4 件)
 - g) 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月 25 件
(内訳 共通編 2 件, 鋼橋 4 件, コンクリート編 4 件, 下部工 2 件, 基礎工 7 件, 耐震構造 6 件)
- (2) その他の活動

改定道路橋示方書連絡 WG へ委員派遣、設計施工便覧（日本道路協会）意見照会対応、国総研・土研実務者意見交換会参加、ソフトウェアベンダー意見交換会参加および質疑対応を行った。

3. 次年度の活動について

次年度も関連する WG（改定道路橋示方書 WG，公益活動 WG）と連携して、継続的に本年度の活動を続ける。

（道路橋技術相談窓口対応WG長 鈴木 泰之）